

第2学年「みがく」学習活動案

授業者 山賀 愛

2月21日（土） 2階C室 9:00～9:40

1 活動名 ○○のたびをわかちあう（ぐるぐるグループ）

2 活動について

2年生は「旅する学びーリアルな手ざわりー」をテーマに、子どもたちが4つの旅（グループ）に分かれて探究的な学びに取り組んできた。このうち「ぐるぐるの旅」は2年生 37名と授業者が活動している。旅する学びの詳細は、2学年部会の頁をご覧ください。

1学期、ぐるぐるの旅は、「『ぐるぐる』って何だろう」「どんなことをやってみたいか」をサークルになり思ったことを聴きあうことから始まった。子どもたちからは「ぐるぐるってリサイクルみたい」「使わなくなったものをまた使うこともなんかぐるぐるする」「魚の骨とか動物の糞とか土に入れたら肥料になるのかな。ぐるぐるしそう」「クルックフィールズにもコンポストがあった。クルックフィールズには太陽光パネルもあった。自然のものを使うのもぐるぐるにならないかな」などが出てきた。この聴きあいから、「使わなくなったものを使って何かしたい」や「再生可能エネルギーをもっと知りたい」と子どもたちの中から思いが出てきた。子どもたちは、段ボールやペットボトル、トイレトペーパーの芯などを使って、ガチャガチャやお気に入りの箱を作ったり、ペットボトルを切って風力発電を作ったりとやりたいと思ったことを進めた。活動が進んでいくと、「お母さんがいないカーテンで私のスカートを作ってくれたの。」という話から使わない布で何ができるか考えたり、濁った水をきれいにしてまた水として使うことはできないかと考えたりと、生活のことがぐるぐるの旅の活動と結びつき、子どもたちの活動は広がっていった。

さらに、2学期の学年活動（流しそうめん）でペットボトルの流し台を作った経験から、ペットボトルのリサイクルに興味をもったり、そもそもペットボトルを使うことに疑問をもったりする児童も出てきた。他のグループ（あらわすの旅）が竹の流し台を作っていたことにヒントを得て、「あの竹の流し台から水車みたいなものに水を当てたら水力発電ができるかもしれない。やってみたい。」「竹ってなかなか切れない。どうしたらいいんだろう。」と活動が変わっていった。授業者は旅の中で、ぐるぐるの旅だから「循環」をイメージしたものが活動になるかな、何か提示しようか不安な思いがずっとあった。しかし、子どもたちは「まずやってみたい」という思いで活動を進めてきた。それは初めに明確にこうしたいという目標をつくりそこに向かっていったというよりは、その時々で出会うものに触発され、友達がやっていることに触発され、やってみたらなんかイメージが違い、やってみたいことが変わっていくものであった。

本時ではサークル対話を行い、互いの活動を分かち合い、ともに活動を考えていく時間としたい。

3 学習活動計画（13時間目／全18時間）

- | | | |
|-----|-----------------------|------------|
| 第1次 | 3学期に取り組みたいことを考え、共有する。 | …2時間 |
| 第2次 | 「やってみたい」思いを大切に活動する。 | …本時11／13時間 |
| 第3次 | 一年間の旅をふり返る。 | …3時間 |

4 本時の学習について

（1）本時のねらい

- ・自分たちの活動について聴き合い、次の活動につなげる。

（2）予想される本時の展開

主な学習活動と子どもの姿	留意点
1 前時の活動をふり返り、本時の流れを確認する。	・自分が活動したことだけでなく、困っていることなどを話してもよいことを伝え、次時の活動につなげられるようにする。
2 それぞれの思い、考えを分かち合う（サークル対話）	・サークル対話の中に一緒に入り、聴き合えるように話を進めたり、問い返したりして、互いに思っていることや感じていることを出しやすくする。
3 ふり返りを書く。	